

寄せられた意見

No. 199-1

受付日	H18.12.15	年齢	61歳	居住 市町村名	上川町
件名	第19回天塩川流域委員会の感想				

上川町  61才

第19回天塩川流域委員会の感想

北海道から発信しなければならぬ事がある。
20年近く前日本の気象が、近年大きく変化してきているとのラジオ放送を聞いたことがある。今、地球温暖化の言葉でひとくりりにされているが、日本も含め世界の国々で大きく取り上げられ、気象学者を含めあらゆる分野で、それぞれが問題の解決向かって努力している事は周知の事実であろう。それはどういいう事なのか具体的事例を例記し、今後どのような事が予測され、何を準備しなければならないのか、サンルダム建設の是非を問う。

※2060年頃、平均気温で3度Cの気温上昇 (日本気象協会)

1度の気温上昇は緯度で100km南下し、高度で100m下がる事になる。

北海道は本州並の気温となり、台風は比較的日本近海で発生、上陸回数も増えるであろうすでに兆候が明らかに成っているが「梅雨」と「乾期」「洪水」と「渇水」が顕著となる降雪量が少なくなることから、農業においてダム溜め池等の施設整備が求められる。

中国ではすでに、砂漠化が北京までおよんでいるが、日本でも黄砂による農作物への被害が懸念されるようになる。

日本でも南国地方は亜熱帯化し、北への人口移動が起きる。

世界的に農産物の輸入が困難となり、日本では高い自給率が求められるであろう。

北海道は大穀物地帯の供給基地となり、荒れ地も農地へと、大転換が求められる。

上記事柄をおまえ、今回議論の焦点となった件について考えてみた。

1) 現状の堤防で漏下能力が十分である。

少しでも治水の事に携わった者であれば、いかに無謀な発言であるか分かる。

河川水位を如何に低く保つのが治水の原則であり、堤防は補助的で両方相まって、治水であり、前者だけ肯定することは、恥ずかしく幼稚であり、これを採り上げる新聞も勉強してほしい。

2) さくら鱒とカラス貝、「川真珠貝とも言う」


サンル川のみが、さくら鱒の生息地であるかのように誇大しているが、網走の湧別、猪狩川、道南後志利別川など、遥かに多数遡上し、ドリカダムの魚道は一条の川として最大限機能しており、懸念事項は何もない。支流種川は禁漁区として保護されている

カラヌ貝は皆で、天塩川のいたる所に生息していた。砂利採取、バルブ、家庭排水等で、減少してきているが、総てをダム建設にかぶせて言を發する事は意図的で、滑く滑い。又この事について、調査の必要を求めているが、提案者は調査の方法、費用、必要年数等示すべきである。

3) 河川に工作物はいらぬ(北留鯖魚組)

一人よがりの横暴な発言と断じる。

岩尾内ダムが出来るまでの、水駆働について、分かって発言しているのか、皆で洪水、

※  箇所は、個人情報等に該当するため黒塗りしています

寄せられた意見

No. 199-2

受付日	H18.12.15	年齢	61歳	居住 市町村名	上川町
件名	第19回天塩川流域委員会の感想				

濁水にどれだけ対応してきたのかわかるよしもないであろう。
上流に住む人は下流に、下流に住む人は上流に、それぞれ想いを馳せてこそ、川に恩恵を受けている人間の生き方であろう。
各委員はあのような独善的意見は「人として」正すべきである。

*自然界と、人間のタイムスケールは大きく異なるが、12月12日「米国地球物理学会」から「2040年北極の氷が消滅」と発表され、地球規模での異変が進み出したことを、さらに強く感じる。
冒頭でも述べたが、人類がかってない危機にさらされている今、人間の生きる源である「水」も、心もとない意見で北の大地の未来に、禍根を残すことの無いようお願いしたい。